

日本財団助成事業「わくわくサンゴ石垣島」サンゴ学習プログラム
白保魚湧く海保全協議会 作成

「シュノーケル技術講習」&「シュノーケル観察会」

■概要

- ・プールを使い、シュノーケル道具の使用の仕方を学ぶとともに、足ヒレを用いて泳ぎ、
シュノーケルで呼吸し、水中で立つことの出来る技術を身に付ける。

→時間 3校時分

- ・海岸でシュノーケル技術のおさらいをした後、船に乗り白保サンゴ礁の2つのポイントを巡り、実際にサンゴ礁の海で泳ぎながらサンゴやサンゴ礁の生き物を観察する。
また、しらほサンゴ村に戻り、海で観察してきた生き物についてのまとめ学習を行う。

→時間 終日

対象：小学校 5年生 or 6年生

人数：定員 24名／回

(事前に、島の暮らしとサンゴ礁のレクチャーやサンゴ水槽学習を受講すると良い)

■目的

- ・身近な自然を楽しむための最低限の技術、知識を獲得する。
- ・サンゴ礁の世界を体験し、島の自然についての理解を深めるきっかけとする。

■背景

サンゴ礁の海に囲まれた石垣島。しかし、島の人々の多くがサンゴ礁で泳いだことがなく、生きた状態のサンゴを見たことがありません。島で生まれ、育つ子どもたちがサンゴの海で泳ぐ経験を持つことは島への誇りと愛着を醸成するとともに、島の自然についての理解を深める上でとても大切なことだと言えるでしょう。

■教材

- ・白保のサンゴ礁
- ・ワークシート

■進め方

- ・シュノーケル技術講習

プールで集合し、準備運動の後、グループ分け及び指導者の紹介を行います。(6名1グループで、各グループに2名のスタッフが付き指導します。)

シュノーケル道具の使い方の説明を行い、グループに分かれ技術講習を行います。

ウエットスーツの浮力を体感する。マスクの曇り止めの方法、シュノーケルを使った呼吸法、足ヒレの使い方、泳ぎ方、立ち方などを身に付けます。

- ・シュノーケル観察会（プール実習とは別日程で実施）

しらほサンゴ村に集合し、グループ分け、スタッフ紹介、海の危険生物、海での注意事項の説明し、ウエットスーツに着替えます。その後、グループごとに海へ移動し、準備運動をし、海岸の浅瀬でシュノーケル道具の使い方、泳ぎ方、立ち方を再確認するとともに、海に慣れてもらいます。

各グループの確認が終了した後、乗船し、白保サンゴ礁の2つのポイント（第2ポール大きなハマサンゴや、放流ギーラ（シャコガイ）の観察、多様なサンゴとサンゴ礁の生き物の観察、第1ポール 世界最大級のアオサンゴ群落の観察）で、シュノーケルをしながらスタッフのガイドにより多様な海の生き物を観察します。観察終了後船で浜へ、徒歩でサンゴ村に戻り、着替え、道具の片づけをします。

昼食（お弁当）の後、振り返りを行います。

■まとめ

海で遊ぶのは危険だと近寄らせない指導が主流ですが、子どもたちは海での安全な行動について学ぶ機会も必要です。授業を行うことで自然を楽しむための正しい用具の使い方や海辺の危険生物について学ぶことができます。

白保の海は世界的にも貴重な素晴らしいサンゴ礁が広がっています。安全に配慮したシュノーケル学習を通じ、子どもたちが海の素晴らしさに気づき興味を持つことでサンゴ礁保全に対する意識を高めることが期待されます。

○シュノーケル練習(プールにて)



○シュノーケル観察



○振り返り学習

